



広報

かじき

第149号

44.3.8 発行

発行所 加治木町役場
発行者 曾木 隆輝
担当者 向江 巧
編集者 中元 邦夫
印刷所 吉屋 印刷

全ご家庭に、もれなく配布



春を迎える

3月は官庁や学校の年度末。また新年度を迎える準備の月でもあります。一般の会社でも3月決算をするところが大部分で、いそがしきはふだんの人の倍も感ぜられることでしょう。

気候も変わり目に当たり、急に暖かくなったり寒さがふり返したりして、とかく身体に変調を起こしやすい季節といえましょう。

春を呼ぶ加治木名物の初市も、昔ながらのに

ぎわいを見せてくれました。やはりシヨケや茶わんなど、生活に身近な物だけに人気があつたようです。なかでもマイホーム時代を反映してか、家族づれで庭木や花など求める姿があちこちで見られました。

18日は彼岸の入り、21日は春分の日。24日は彼岸あけとなり、いよいよ陽春を迎えることになります。…写真よかテゴは、なかどかい……

町内おもしろごと

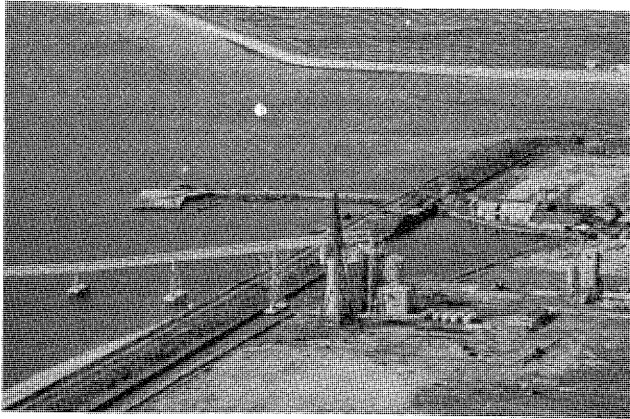
新宅会社のプロイラー養鶏場

新宅肥料会社のプロイラー養鶏場を弓削に設けることで、用地三千坪あまりを購入、宅地転用の許可申請中のところ、このほど許可されました。新宅肥料会社では、さっそく工事に着手することです。

防疫に十分注意することの条件を町農業委員会としては付けてあります。

加治木港の拡張

加治木港の拡張について、町で



拡張される加治木港

は県や政府に運動中のところ、いよいよ二億数千万円かけて、昭和四十七年度までかかって、今の岸壁を東西にのびし二百三十五メートルとすることにきまり、いまのところ町漁業組合と、県と交渉中です。

なお、国分海岸保全事務所と県との話し合いもついて、新年度から黒川地区堤防の補強もなされるということですが。

加治木労働基準監督署が落成

二月十八日加治木労働基準監督署の改築落成式が行なわれ、有馬労働事務次官や丸野職安局業務指導課長補佐（本町出身）など出席



完成した労働基準監督署



表彰をうける錦江第三地区

して盛大に行なわれました。前日、有馬次官は役場を訪ね、今後の労働行政のことで、町長と

意見の交換がなされました。

錦江第三地区表彰

錦江第三地区（上木田、西ノ原、新中、楠園、中福良東、後）は、さきに県の新生活運動の指定を受け、森田第一館長を中心に、地域

加治木町は、十三塚原空港、九州縦貫道や港湾整備などで、将来県内で一番便利な所になることはまちがいないので、県の二十年後のビジョンでも

湾奥地帯（錦江湾の北がわ）の構想は、いろいろたててあります。県が考えているような學術研究や教育の機関などができる前に、大小の企業が進出してくることは必至であります。

町としても、せっかく都市計画ごとと道路計画を新しくたて住宅や運動場などを考えて具体化することにしています。土地の入手がますます困難になりつつあります。そこで、町は町自体の事業として、用地を確保することは、財政

町開発公社が設立
宅地造成に役立てる

上からも予算的にもむづかしいので、そんなことを専門的にやるため開発公社をつくることを考え、昨年いっぱいかかってやっと一月末、県の認可を受けました。認可がおくれましたので、本格的には四十四年度から活動します。理事長に町長、副理事長に議長、助役を常務理事として、議会の常任委員長や役場がわの収入役、ほか関係者など、理事、監事にきまりました。

とりあえず、住宅敷地などの買収造成から、かかる見込みです。

県防火ポスター佳作に

堂森くん（永原小）

県では二月二十八日から始まった春の全国火災予防運動の一つとして、県下の小、中学生から募集していた防火ポスターの入賞者を決めました。

応募数千八百九十一点の中から当町永原小三年の堂森康弘くんが佳作に入賞しました。おめでとう。

住民協力して、その実績をあげていますが、このほど文化センターで開かれた、県新生活運動大会の席上県知事から表彰を受けました（表彰をうけるのは地区館長の森田さんです）

「地籍調査」

ことしは菖蒲谷地区

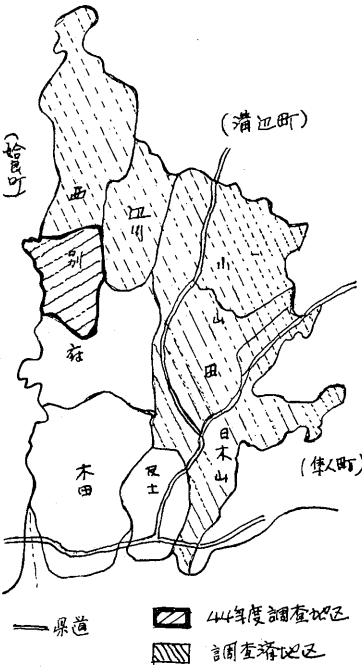
境界のくいは正確に立てよう！

町では、三十九年度から国土調査法に基づいて地籍調査を実施しており、これまで日木山、小山田、辺川、嶽地区の調査を終えました。

ことし(四十四年度)は、菖蒲谷地区(西別府)三・一平方キロメートルを行なうことになりました。この

地区関係者のかたがたの調査に対する全面的な協力を願います。

地籍調査は、現在の土地台帳や字絵図を全面的に改正する重大な



仕事であります。皆さんの土地所有権を法的に確立しようとするもので、関係地区の皆さんがたが設置された境界抗(くい)の一本一本が、そのまま地籍図の線として記録され、しかもこれは今後永久に境界を決定づける極めて重要な調査であります。

▼地籍調査で土地所有者は、どんなことをしなければならぬか
○自分の所有地を確認し、関係者と立ち合ひの上で境界線に、直径五センチ以上の境界くいを土の中に深く打ち込みます。

○山林、原野などで境界がやぶなどで、はっきりしないところは境界線を伐採して見とおしをよくし、筆界くいを立ててください。

○紛争で筆界が定まらないところは、くいを立てず「これより(上・下)筆界未定」と書いた札を見やすいところに立ててください。

○筆界くいを立て終わったら、標

札(役場から配付)を見やすいところに立ててください。

これが終わってから、調査員が台帳の写しと、字絵図の写しを持って、一筆ごとに境界くいをもとに、一筆調査を実施します。

▼筆界くいは、いつまで保存しなければならぬか

「広報かじき」が特選

広報コンクール町村の部で

昭和四十三年度の県市町村広報コンクールの町村の部で「広報かじき」は特選に決まりました。

また広報写真の部では、向江巧係長が「組み写真」と「一枚写真」の部で両方とも入選しました。

なお「広報かじき」は昭和二十五年の創刊号以来、次のように表彰を受けています。

- 入選 昭和三十五年
- 入選 昭和四十年
- 入選 昭和四一年
- 入選 昭和四二年
- 特選 昭和四三年

翌年度まで「くい」が残っていないと、面積などの検査ができませんので、調査・測量が終わって耕作などのじやまになれば、さらに深く打ち込むか短く切っておき、少しづつでも永久的な境界標にとりかえて行きますが、それまでは「くい」は絶対に引きぬかぬように注意してください。

表彰二題

岩元収入役ら

県町村会で表彰

二月二十日県自治会館で総会が開かれ、町村会の決算や予算の審議等が行なわれ、その席上、各町村吏員の表彰があり、当町から岩元収入役ら十五人が表彰されました。

- 岩元朋友 吉園清 恒吉晃 神田貞豊 稲留繁 野元茂 隈原明 原田広道 梅木兼夫 市来原盛吾 犬童博子 四元義照 木下幸江 本中野勉 堂森輝文
- 福島綾子さんら
- 法務大臣から表彰

二月始め、町役場住民課、吏員福島綾子さんは永年、外国人登録事務に従事し功績のあったことで西郷法務大臣から表彰されました

特選になつた第144号



「たばこ」は町内の店で
買いました

塵芥処理場と火葬場の建設

西部四か町で申し合わせ

清潔で住みよい町づくりは、まず衛生環境の整備とチリやゴミを処理する施設の建設が急務であるとして、このほど始良郡西部四か町（溝辺、蒲生、始良、加治木）の共同事業で、じんかい（塵芥）処理場と火葬場を建設する計画を申し合わせました。

現在、関係各町とも完全な処理施設がないため、埋め立てというきわめて非衛生的な方法で処理しています。

生活文化の向上によって、各家庭や事業所などから出されるチリやゴミの量もますますふえる傾向にあります。が、この建設によってチリやゴミが完全処理できることになり

建設するじんかい（塵芥）処理場の処理能力は、一日二十五トンのチリやゴミを処理できる仕組みです。

また、火葬場についても、墓地は年を追って納骨堂に整備されていくものの、火葬については関係各町とも火葬場を持っていないので、昭和四十五年完成を目標に早急を実施することを申し合わせました。

鉄骨橋と部落産業道路

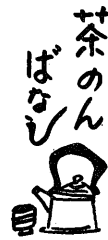
完成を喜ぶ迫部落

竜門東元地区迫部落では、このほど部落民全戸の努力奉仕で、りっぱな道路を完成しました。

道路の幅は二・五メートル。道路の長さ千八百メートルで、完成

までに二週間、延べ人員四百人をこえる奉仕ということです。

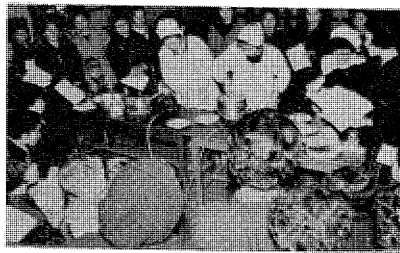
新しいこの道路は「部落産業道路」と名付けられており、これの完成によって部落の川向うにある



引っ張りだこの

栄養改善推進員

昨年の九月から活動を始めた町栄養改善推進協議会は、部落や校区婦人会などから、つきつきに申込みがあり、講習会の数も二月末



までに二十回をこすほどの活動ぶりです。

どの会場も毎日の食生活に対する考え方や栄養についての知識など、身近な問題であるだけに主婦たちの参加者も多く、熱心に栄養食の実習に励んでいます。

二十人の推進委員は今のところあちこちの部落や校区公民館などから引っ張りだこのようです。

委員の活動メモには「どの会場も非常に熱心です。町内の主婦たちが栄養改善について、こんなにも関心があることはうれしい。わたしたちも励みが出てきます…」と、なかなかの張り切りよう。

でも最後に「どの会場も料理講習に十分な台所施設がないのが、さびしい！」と、やはり主婦としての嘆きをチョッピリ記してありました。

どんな料理ができるかな

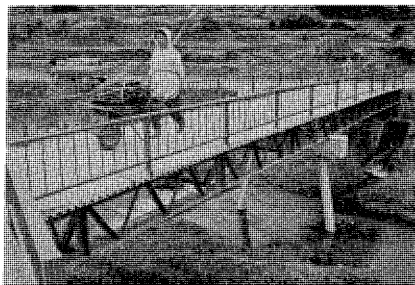
……（永原小で）

田、約八町歩（八ヘクタール）の耕作や山のしごとが便利になり、機械力もどしどし使えらると、この田を耕作する人たち（四十戸）をはじめ、みんなが喜んでいました。

また、昨年の十月には、この道路づくりの第一期工事ともいえる鉄骨造りで長さ十八・三メートル幅二・一メートルのりっぱなもの



一輪車で土運び



橋ができて便利になりました

で、総工費は四十一万五千元。このうち部落の負担が二十二万八千円、町からの補助金十八万七千円で、このほかに部落民の努力奉仕もあつたということです。

この部落の自慢のうち、おもなものは、この道路や橋はもちろん毎年五月に部落運動場で行なう部落総出の運動会、スポーツ少年団を結成して青少年活動に効果を上げていくこと。部落の中心となる三十代、四十代の壮年が多いこと

出かせぎ者がひとりもいないこと、など……「まだまだ自慢ばなしは続きそうです。

部落からの電話で迫を訪れた担当者にはこれから先、どんな目新しい部落の計画が出てくることやら……、部落の振興に努力する部落民の今後を期待しつつ、二重の喜びにわく迫部落をあとにしました

本人はだいたいようぶでも

運転中に酔いが回る

酒酔い運転は、本人はだいたいようぶだと思っても、運転しているうちに酔いが回って注意力や反応動作が、かんまんになって、大きな事故を起こしがちです。

ハンドルを握る時は、絶対に酒を飲まないこと。また周囲の者も運転者には絶対に酒をすすめないこと。酒が出る会合などへは車を運転して行かないことの三点を守る必要があります。